

チャレンジ！！オープンガバナンス2024 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名(注1)	No.	自治体提示の地域課題名 高齢者や外国人など、情報弱者を無くしたい！	自治体名 大阪市東淀川区
チームがつけたアイデア名(公開)(注2)	子育てママ・パパも外国人、高齢者も「Plus 防災」でゆるくつながる		

(注1) 地域課題名は、COG2024サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

チーム名(公開)	DKD 防災プロジェクト		
チーム属性(公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	ドロップダウン選択→	3.混成
チームメンバー数(公開)	4名		
代表者(公開)	臼杵優吾		
メンバー(公開)	野島千愛、傳 暁麗、田原佳織		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2024_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、COG2024のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名(メンバー一覧ページを参照)、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について:
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示—非営利)4.0国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OK なら右欄の○を選択 ➡ OK

＜チームメンバー名簿:メンバー一覧ページ＞

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容(公開)

アイデアは、対象とする課題解決のために、どのような社会的活動(サービス)を行うのかを具体的に示してください。

将来実現した場合に、**新規性があり、実践したくなり、魅力的でわくわくするようなアイデア**を求めます。その結果、課題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待されます。**2ページ以内**でご記入ください。

※応募チームとして**解決したい課題のポイント**を、以下にごく短く書いてください

＜解決したい課題のポイント＞

子育てママ・パパも外国人にも防災に関心をもってもらい、防災リテラシーを身につける。震災後の避難所生活のストレスを和らげ、少しでも希望を持って楽しく過ごしたい。

※以上の課題解決のために『何』をする**アイデアか、それを『だれ』が『だれ』に対して『いつ』『どこで』『どのように』行う**のか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

(参考)よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感(使う人の立場になってみる)が大切です。

＜提案するアイデアの内容＞

I 日常生活、II 災害が起こったとき、III 避難所生活の3つのフェイズに分けアイデア内容を説明する。

【I 日常生活】

①子育てママもパパも「Plus 防災」イベントに参加し、楽しく自然に防災リテラシーを身につける

東淀川防災アシストならびに女性防災リーダーが中心となり、ゲーム＋防災、カフェ＋防災、ピクニック＋防災、BBQ＋防災など、**子育てママやパパなど若い人が参加したくなるイベントを企画し、防災を Plus する**。開催場所は公民館や公園、さらには淀川に河川敷があり、様々なイベントを実施することができる。子どもを預かる託児所を設置し、大阪経済大学のボランティア部が託児所をお手伝いする。キッチンカーも手配する。**自治会の加入に関係なく、東淀川区に住んでいれば、どの校区からでも誰でも参加できるようにする**。イベントに楽しみながらお互いを知り、ママとパパがそこでつながり日常の防災の知識や情報を知ってもらい高齢者にも参加を促す。また、防災専用LINE オープンチャットを開設し入ってもらい次回以降のイベント情報をLINEで配信する。女性防災リーダーはLINEを通じ、着替えやトイレ、授乳など女性に配慮した避難所の環境整備を自治会や行政にはたらきかける。



イメージ図

②留学生を対象に外国人防災リーダーを養成し、地域の外国人とつながる

大阪経済大学国際交流センターが主催となり、外国人防災リーダーを育成する。**大学キャンパス内で外国人防災リーダーはSNSを通じ、地域の外国人と交流会を行う。交流会を通じ防災知識を普及し、防災意識を高めて、避難所のあり方を理解する**。外国人防災リーダーは女性防災リーダーと連携し、ゲーム＋防災、カフェ＋防災、ピクニック＋防災など「Plus 防災」イベント情報を共有し、SNSを通じ留学生や地域の外国人に参加を呼びかける。東淀川区内の「アジアセンター21」という民間の国際交流センターがあり、「Plus 防災」イベント情報を提供する。

【II 災害が起こったとき】

SNSを活用し速やかに安否確認と必要な情報を正しく伝える

- ・地域女性リーダーがSNSで子育てママの安否確認を行い、情報の提供と要望を聞く。
- ・外国人防災リーダーは地域の防災ネットワークと連携し、SNSを通じ外国人の安否確認を行う。他の日本人住民や行政機関と協力して避難行動の指揮を取ることも必要である。外国人防災リーダーは避難所の場所や避難ルートを熟知しており、外国人住民がパニックに陥らないように冷静な行動を促す。

【Ⅲ避難所生活】

長期化する避難生活のストレスを和らげ、少しでも希望を持って楽しく過ごしたい

避難生活が続く中で、少しでも希望を持ち前向きな姿勢を保つことが重要である。女性防災リーダーは子育てママや女性に配慮し、避難所生活が少しでも快適に過ごせるよう行政などにはたらしかける。外国人防災リーダーは SNS を通じ、避難所生活のルールや注意点の情報を提供する。両リーダーは子ども向けゲームや多文化交流会などを企画・運営し、避難所生活にみられる国籍や性差、世代間のあつれきを軽減させる。また、外国人防災リーダーは外国人の特定のニーズに配慮し、避難所でお互いにサポートし合い、前向きな避難生活の雰囲気を作り出す手助けをする。長期化を想定し、両リーダーは防災ボランティアセンターと協力しボランティアグループを結成し、ハンドマッサージ、アロマ、足湯スペース、キッチンカーなど、避難所生活をより快適に過ごせるよう、イベント開催を進める。

(2) アイデアの理由(公開)

次にアイデアを提案する理由(なぜ)について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

※このアイデアを提案する理由(なぜ)を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

＜参考：以下のように理由を書いていきます＞

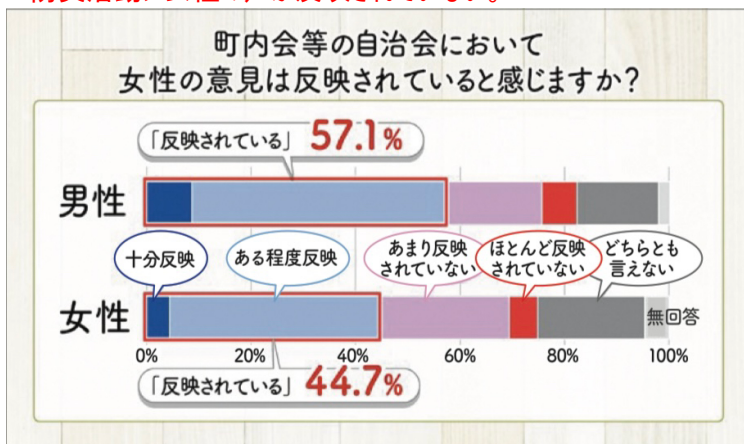
※根拠：このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。

※裏付け：その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。(定性データを含めて歓迎)

【防災活動の現状と課題】

★相変わらず自治会主催で男性主導型である。

★防災活動に女性の声が反映されていない。

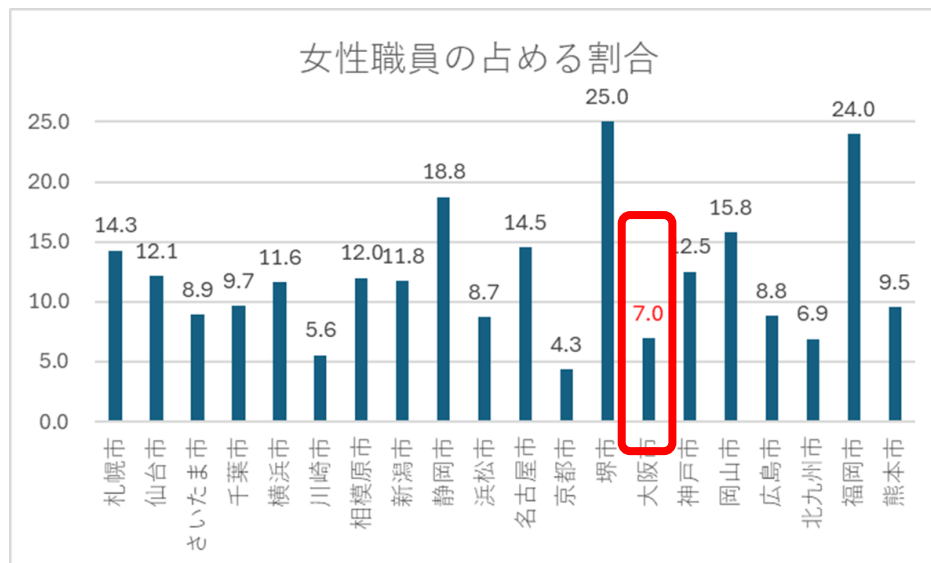


出典：「令和元年度ワーク・ライフ・バランス、男女共同参画及び女性活躍に関する県民意識・企業実態調査」
背景①

・行政の女性担当者の割合が少ない

政令市都市の防災・危機管理部局に配置されている女性職員の占める割合は、多い都市でも25%と少なく、大阪市では7%と極めて少ない。このように防災の担当職員は男性主体となっており、そのことが女性や外国人などに対する配慮や視点が希薄化する背景になっていると考える。

防災・危機管理部局に配置されている女性職員の占める割合(政令指定都市20を対象、2022年12月現在)



背景②

・地域で活動する女性防災リーダーが少ない

大阪市内の地域防災リーダーにおいて、女性の占める割合は2014年では14.7%(8,640人中、女性1,270人)、2024年では25.1%(7,434人中、女性1,865人)と10年で10%増加しているが、女性の占める割合は3割にも満たない。東淀川区をみると女性の占める割合は17.6%と、大阪市の平均より7.5%少ない。防災訓練や避難所生活に女性の声が反映されにくい要因のひとつと考えられる。

(出典:大阪市危機管理室)

背景③

・外国人防災リーダーがいない

大阪市の在留外国人はコロナ禍以降増加しており、政令指定都市の中でも人口・比率とも最多である。ところが、外国人防災リーダー制度はなく、大阪府下で外国人防災リーダーが活動しているのは箕面市だけである。

東淀川区の在留外国人は7,411人、中国籍がもっとも多く韓国及び朝鮮籍を合わせると全体の6割を占める。

引用:令和4年大阪市外国人住民国籍別区別人員数、大阪市

課題1

外国人の防災リテラシーが乏しい

総務省、令和4年度「災害時外国人支援情報コーディネーター養成研修」・災害発生後の危険情報や対応情報を受け取ってもストック情報がないと、避難行動はとれない。災害時のリスク、どのように避難すればいいのか、避難所で受けられるサービス、避難所での行動、日本人の外国人の理解不足や先入観

引用:「災害時における外国人対応について」総務省、令和4年度「災害時外国人支援情報コーディネーター養成研修」

課題2

避難所生活が長くストレスがたまる、エコノミー症候群が多発

ライフライン停止が長期に及ぶ場合は、1ヶ月～半年程度避難が続く

・阪神・淡路以降の震度7の地震災害では、すべての避難所が閉鎖されるまでにおおむね半年間。

熊本地震では「一時避難所」で2ヶ月過ごした事例も

・水害でも大規模な場合は1ヶ月以上避難所生活が続く

・避難所生活の過ごし方は、その後の健康リスクにもつながり、災害関連死を招くことが報告されている。狭い空間で長時間動かず座り続け起こるエコノミークラス症候群を発症した人は、8年後脳梗塞など発症リスクが高い(2024年11月4日朝日新聞)。

引用:「災害時における外国人対応について」総務省、令和4年度「災害時外国人支援情報コーディネーター養成研修」

(3) アイデア実現までの流れ(公開)

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、**アイデア実現までの大まかな流れについて、2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1. 実現する主体

東淀川防災アシストと DKD 防災プロジェクトを主体とし、東淀川区在住の防災女性リーダー、外国人防災リーダーがチームを結成する。

2. 実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)の大まかな規模とその現実的な調達方法

ヒト

東淀川防災アシスト、私たち学生、女性防災リーダー、外国人防災リーダー、大阪経済大学国際交流センター、東淀川区社会福祉協議会(防災ボランティアセンター)

モノ

SNS で子育てママやパパなど若い人は LINE で友だちになり、留学生と外国人が SNS でつながり、お互いのネットワークをつくる

「Ⅲ避難所生活」ハンドマッサージ、アロマ、足湯スペースなど、避難所生活をより快適に過ごせるよう、SNS やマスコミ行にはたらきかける。長期化に備え、託児所設置も検討する。

カネ

「Ⅰ日常生活」のイベントにかかる諸費用は大学と相談する、また地元企業から寄付を募る。

「Ⅲ避難所生活」では共同募金や公的資金は使途が決まっており、能登半島地震の事例から自由度の高い緊急支援募金(ファンドレイジング)を進め、快適に過ごすコンテンツの活動資金を調達する。

3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

①2025年4月～12月: 東淀川アシストと私たち学生が中心となり、東淀川区内の女性防災リーダーに集まってもらう。子育てママやパパなどが参加したくなる「Plus 防災」イベントを企画し実践する。呼びかけは17校区の子育てサロンにチラシなど配布する。LINE オープンチャットに入ってもらふ。

②2025年4月～12月: 「Plus 防災」イベントの情報は学生が LINE で共有する。

③2025年5月～7月: 大阪経済大学国際交流センター、私たち学生は大阪経済大学留学生を対象に外国人防災リーダーを育成する。

④2025年8月～10月: 東淀川アシストと外国人防災リーダーは SNS を通じ、地域の外国人と交流会を行う。交流会を通じ防災知識を普及し、防災意識を高めて、避難所のあり方を理解する。

⑤2025年10月～12月: 私たち学生と外国人防災リーダーは女性防災リーダーと連携し、外国人も①「Plus 防災」イベントに参加を呼び掛ける。イベント体験を通じ、日本人と外国人の交流を深める。同時に高齢者との交流も図る。

⑥2026年1月～3月: 東淀川アシストと私たち学生は避難所生活を前提にファンドレイジングの準備を進める。ホームページの立ち上げや申請書の準備など、実際に能登半島地震後の災害ボランティアにおいて、緊急支援募金を活用した氷見市の社会福祉協議会に教えていただく。

これまでの取り組み

【子育てママとパパ】

大阪経済大学は東淀川防災アシストの協力のもと、2024年11月23日子ども向けの防災イベント「だいけいだいキッズスマイルフェスタ」を開催した。「防災・教育・福祉」をテーマに、子どもたちが楽しみながら学べる体験型イベントとして実施され、約40種類のプログラムを用意した。この様子は NHK のニュース番組で紹介された。

https://www.osaka-ue.ac.jp/topics/event/20241204_3438.html



【外国留学生】

2023年2月16日外国人留学生が東淀川防災アシストと地域の子育てママと共同で、防災知識を学んで体験する「防災ピクニック」を本学大隅キャンパス周辺で開催した。東淀川区と消防署に協力をしていただいた。留学生の視点でまとめた防災レポートを報告。外国留学生間で防災情報を共有し、災害に備えることの大切さを改めて認識した。この様子は NHK や地元テレビニュース番組で紹介された。

<https://www.osaka-ue.ac.jp/information/news/detail-7344.html>

